

ビジョン“TORAY VISION 2050”、長期経営方針“TORAY Challenges 2035”ならびに 中期経営課題“IGNITION 2028”の策定について – Weaving Science into Society 「科学で社会の未来を紡ぐ」 –



2026年3月25日

東レ株式会社

東レ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：大矢 光雄、以下「東レ」）は、このたび、2050年に東レグループが目指す世界を、従来の「東レグループ サステナビリティ・ビジョン」から改定し、新たに“TORAY VISION 2050”として設定しました。その世界の実現に向けて、今後10年間で想定する事業環境・トレンドの大きな変化と、東レグループに及ぼす長期的影響を踏まえ、2035年までの長期経営方針“TORAY Challenges 2035”を策定しました。

そして、この長期経営方針の下、新年度の始まりである2026年4月から3年後の2029年3月までに取り組むべき課題として、中期経営課題“IGNITION 2028”をスタートさせます。

TORAY VISION 2050では、2050年に目指す世界として、「人と地球が調和し、資源が循環し、自然が再生していく世界」「安全・安心な社会の中で豊かさが生み出され分かち合える世界」「すべての人が健やかに心地よく暮らす世界」の実現を目指します。

その世界の実現に向け、TORAY Challenges 2035では、5つの長期経営方針として「確かな成長と次世代市場での飛躍」「ビジネスモデルの転換」「現場力強化とサプライチェーンの強靱化」「DXによる価値創出の仕組み強化」「人材を核とした経営基盤強化」を掲げました。不確実性が高まる中、リスクを機会に変えるビジネスへの転換と、東レが長年築いてきた世界中のアセットのフル活用により、価値を創出していく考えです。

TORAY Challenges 2035のゴールである2035年の東レの「ありたい姿」を端的に表す言葉が、「Weaving Science into Society 『科学で社会の未来を紡ぐ』」です。私たち素材産業は、社会に実装してこそ、その価値を創出できます。この言葉は、素材に限らない東レの科学（R&D、生産、エンジニアリング、マーケティング）を、社会課題やニーズと結びつけ、社会に実装することで、不可欠な価値へと高めていくという姿勢を示しています。

IGNITION 2028は、これまでに取り組んできた中期経営課題“プロジェクト AP-G 2025”の成果と課題、そして長期経営方針を踏まえ、その最初の実行フェーズとして2026年4月から2029年3月までの3年間に取り組むべき課題です。

「IGNITION」には、成長に再点火し、次のステージへ踏み出すという意味を込めています。

事業ポートフォリオの見直しやセグメント変更を通じて、成長性と戦略性をより明確にした事業運営を行うとともに、経営資源の配分を、中長期的な成長につながる領域へとさらに重点化していきます。

また、単なる規模の拡大だけでなく、付加価値の創出、競争力の強化、そして人材やDXを通じた事業変革を同時に進めることで、成長の「質と確度」を高めることを重視します。

基本方針として、ROICを上位概念としながら、成長戦略と構造改革に同じ熱量で取り組むことで「経済的価値の

向上」を目指すとともに、事業を通じた環境・社会課題へのソリューション提供、環境負荷低減といった「社会的価値の向上」を目指します。あわせて、安全・防災・環境保全、「人を基本とする経営」の実践、リスクマネジメント、倫理・コンプライアンス、知財・無形資産の活用、ブランディング、DX・AI活用といった経営基盤強化にも取り組んでいきます。

IGNITION 2028では、2028年度の数値目標として、ROICを約7%、ROEを約8%へ引き上げることを目指します。その前提となる売上収益は3兆円、事業利益は2,300億円とすることで、収益性と成長の両立を図ります。事業利益率は8%への改善を目標とします。

東レは、TORAY VISION 2050の実現、そしてToray Challenges 2035で掲げた目標の達成に向け、マイルストーンとしてIGNITION 2028に取り組むことで、これからの3年間、成長戦略と構造改革の「質と確度」を高め、「真のサステナブルな会社」への進化を目指してまいります。

以 上

<ご参考>

■ 2028年度 数値目標

以 上

東レ公式SNS    

 **Toray Group**

Copyright © 2026 TORAY INDUSTRIES, INC.